分科会 G［企画］　中国農村の社会と経済

報告 1　厳善平（同志社大学）

テーマ「戸籍改革、「農転非」およびその社会経済的効果――中国総合社会調査に基づく」

中国の戸籍制度は 1958 年より施行された戸籍登記条例、およびその実施細則等で構成される独特のものである。ここ 40 年、戸籍制度改革が漸進的に行われ、農転非および戸籍の転出入の要件が緩和され、非農業戸籍に紐づけられる多くの特権も徐々に失われている。本報告では、戸籍制度改革の中身を精査し、それぞれが非農業戸籍人口ならびに都市化率の変化に与える影響を考察する。その上で、中国総合社会調査の個票データを用いて戸籍類型や農転非の特徴、さらに戸籍類型の職業収入への影響を明らかにする。主な結論は以下の通りである。2010 年代初め、身分的性格を持つ戸籍の経済的意義がなくなりつつある。これは、市場経済化が生み出した結果であろう。2000 年代後半から農転非に対する人々の渇望がなくなり、2014 年に農業戸籍と非農業戸籍の区別をなくす方針で改革を進めることが決定されたが、背景に、戸籍の持つ特別な意義がなくなり、制度改革による利害調整のリスクが小さいという政治判断があったと思われる。

報告 2　堀口正（大阪市立大学）

テーマ「中国農村社会における生活組織と女性ネットワークの役割」

最近、中国独自の「公共圏」に関する議論や国家と社会および個人的なネットワークとのバランスによって形成される市場秩序の問題、そしてそこでの女性の役割などが関心を集めつつある。こうした動きのなかに、経済学の地域化、歴史分析の必要性を再度、私たちに突きつけていると解釈することも可能であろう。同時に、こうした関心の集まりは、市場の秩序にとどまらず、中国社会をどのように捉えるべきかといった課題がなお未解決であることを教えてくれている。本報告では、中国農村社会における生活組織と女性ネットワークの役割といったテーマを設定して、個人の行動（利益獲得など）と秩序形成の問題に焦点を絞って、簡単な考察を行うとともに、今後の研究課題などを提起することを目的とする。その際に、以下の点に着目する。第 1 にインフォーマルな制度の役割を長期的な視野の中で跡付けること、第 2 に公的な役割と家族役割の特徴とその変化に留意することなどである。

報告 3　金湛（愛知大学）

テーマ「生産関係の角度からみた中国の土地政策――「三権分置」政策に対する考察」

改革開放以後、農地の集団的所有権と農家の請負経営権の分離を土地政策の基本路線に、中国政府は数十年にわたって様々な政策を打ち出し、幾度も調整と方向転換を行ってきた。その背後には、中国の厳しい土地条件と人口条件に基づく農業問題、すなわち、分散的な土地所有に基づく農業経営の非効率性と効率性を高めるための土地集積による農民の小作化、貧困化のジレンマがあった。政策の調整と方向転換は、土地集積による農家の階層分化を避けながら、農業生産性の向上を実現するための政府による模索であったと推察される。

本研究は再編のプロセスをたどっている中国の農業生産と農村社会を分析するために、まず、中国における土地の所有制度及びその変遷に注目したい。そして、所有権、生産規模、組織化といった三つの概念の関係に基づいて農業生産を複数のパターンに分類する。最後に、それぞれのパターンの特徴を照らし合わせながら、土地政策の本質と効果について検討する。